

全佛通信

四月号
発行所 財団法人
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ木四丁目
電話(四)二九六九
振替東京三三六〇
発行人 阿部竜伝
編集者 伊東聖純
印刷所 ルンビニ社

期待大の第12回静岡大会 五千名が一堂に会同

部会に重点、 担信徒部会も設置

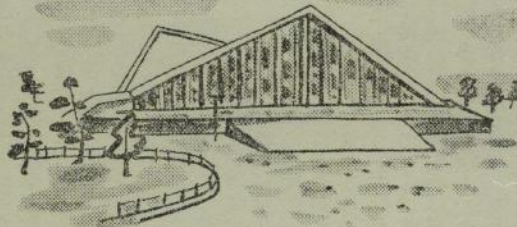
全仏大会も既に第十二回目を数えるに至り、運営面に於けるマンネリズムの傾向を散見され、会衆動員についても或る種の限界点に当面しているように想われる。此際百尺竿頭一步を踏み出して新生面を開拓すべき時機であるとも云える。こうした大会の反省期にもある全仏当局としても、担当の組織局を中心に今回の大会構想を練るのに苦心を重ね、何とか新機軸を打ち出すべく鋭意努力してきたのである。開催地である静岡県は御衆知のように創価学会の発生地でもあり、大石寺の所在地でもあり、学会関係の種々の催しや行事が行われてきた土地柄である。従って第十二回全仏大会を引受けた静岡県仏教会としても、何とかこれに優るとも劣らぬ大会を企画実行せねばならぬ使命の重大性に思いを致し、地元県仏関係者(二ノ宮清海前会長、松村寿顕会長、浅井弘宗市仏会長を中心とした県仏幹部)は大いに關心を燃やし、

並々ならぬ労苦を費やして来たのである。遇々本年は東京オリンピックの開催年でもあり、吾等仏教徒としてもこの国家的大行事に意義を感じ、協力体制を整える要がある。そこで本大会をオリンピック協賛運動の一環として企画したのである。

全日本の仏教界の大団結の氣勢を昂げ、その感を示す又とない好機である。誇張した表現を用いるならば、本大会の成否は今後の仏教界の方向や運動に重大な影響を与えるというべきであらう。

大会企画の焦点として、先づ大会の本質批判より、大会は会議か親睦か或はリクリエーションか従来の大会でも夫々大会開催地のカラーによってその何れかを中心に実行してきたようである。本大会はあくまで「会議中心主義」を第一義として一貫してゆく事に全仏、静岡県仏間に協議の上決定済み、部会の内容を充実を図るべく計ったのである。そこで部会の所

要時間を四時間とし(記念法要や行事をとり行わず、その時間を部会にあてる)提案者、部長、当局席(全仏各担当局)専門委員助言席を設け、具体的現実に提案事項を審議づけけるように議事運営委員は努力する計画である。大会の生命は部会である。部会の審議は即大会の印象であり、方向づけが行わるべきである。次に今回は特に地元県仏の発案になる担信徒部会の新設置である。地元とし



(写真) 大会々場の駿府会館全景スケッチ

ては淨財を苦勞して募り、大会が終了して雲散したゞけではどうも大人気ない。大会を契機に終了後も永久に残る所産が欲しい。そこで県下の仏教各寺院の担信徒組織が、担信徒部会の開設を機に結成して行きたいという意向によって新部会の設置に相なったのである。従来全日本仏教徒会議といっても、とかく寺院住職だけの大会という傾向があるが、仏教人口

の組織化という眼目から、担信徒や在家仏教者の参加も考えて行かねばならぬのは当然の事である。静岡県仏の試案実行と今後の日本の仏教界に大きな指針を与えるであろう。第三には、本大会は約五千名の参加を目標としたもので、全仏としては画期的大動員といえる。全仏では、大会は加盟団体が推薦者となって代表者を参加させる一種の代表者会議という枠が与えられていた。しかしこうした枠や制限が自縛的となり組織化の上で一つの壁に行き当たった事は否定出来ない。そこで今回はこの枠を広げて加盟団体についても有志者を含めての代表者を推薦し積極的に協力していただくよう要請し教界の為緊く一番多数参加していただき、大会場を立錫の余地なくして欲しいものと切望して己まなを固めるべく最上の努力を傾注して行くものである。第四に全仏事務局として現在の事務機構を総動員して大会に参画する態勢を整える準備を進めている事である。

特に先述の部会運営や、部長、副部長について、各専門委員長や副委員長を候補者としてヴェテランとしてその任にあたるわけであるが、従来とかく各宗派の総花的配置とヴェテラン登用に切り替えて運営してゆく心算である。従って専門委員長も切角学識経験者として委嘱されて委員となっておられるのであるから助言席から専門意見の開陳が必要とあらば発言答弁御意見を頂くようにとりはかってゆくつもりである。大会と直接血脈のつながりのなかつた専門委員制度が、こうした型で大会

と結合して今後の全仏のあり方について諮問権を持つ委員会が、大会決議の方向をそのまゝ、答申に反映していただくようと思われるのである。又詳述をさけるが現行の全仏機構を総動員して大会に対処してゆく心算である。

日本の仏教界が「前向き姿勢」で時局に社会に教化、組織活動を展開しようとしている秋であり、正しく時節到来、大いに張り切って大会を盛り上げて行きたいと念願しているものである。現下の仏教界では、誰かがしてくれという意識の下では退嬰の一步あるのみで、各人が吾こそはの意欲に燃えて仏教精神を昂揚してこそ真の大会の面目に発揚されるものと思われるのである。大会引受実行の任に当る静岡県仏の献身努力的に對しても、一つの試練期を参加者の御熱意により、見事に乗り越え、斯界に美事なり一輪の華を開花させてみたいものである。

(全仏組織局)

「日本仏教文化会議」

議員募集

かねてより結成に踏みきっておりし、「日本仏教文化会議」も準備相いい整い、議員募集を開始した。奮って各位の御参加を希望する。

猶、創立総会は本四月末東京において開催の予定。

ゴータマ・ブッダ(釈尊)の誕生を祝う日として、「花まつり」が盛んに行なわれ出したのは、近年のことである。いまから二十年前、長井博士らが主唱して催した「仏誕二千五百年記念」の行事は朝野の賛同をえて、国際的規模で実施された。

明治以降、キリスト教のクリスマス等の行事に対応して、近代仏教者たちの共通の行事という点で、この「花まつり」が春四月八日に催され出したといつてよいであろう。ブッダの誕生日を二月八日も四月八日も仏典で記している。インド暦の第二の月ヴィンチャカ月にブッダは生れているので、漢訳者は二月とか四月にあてたのであろう。そして、

花まつりの現代的意義

早 島 鏡 正

西紀前四、五世紀のインドは、社会・経済的にも、思想・文化的にも、新しい脱皮を要請されていた。ちょうどそのとき、ブッダは八十年の生涯を送ったのである。ブッダの真面目は、自由と平等の理念を、現実人生において、どのように実践するかを究極目的とするのであった。だから後代の潤飾され、神格化された伝の記述では、とうてい見出しえない真相も、近代仏教学の諸研究によって明らかにされつつある。

戦後もこの三十年、インドの仏蹟を巡拝する人々が増加した。日本仏教史上、真如親王が天竺を目指し出発し、今日のシンガポール郊外で客死したことや、明恵上人が

しく思われる。ゴータマ・ブッダの人間として歩まれた生涯、そしてまた、さとれる者(仏陀)として人類の教師と仰がれる所以のものを、聖地の一木一草が語っているごとくである。

われわれの先祖の心の糧となってきた仏典の一字一句が、文字通り、ブッダの金口の説法と、身に泌しみて拝読できるのも、仏蹟を巡拝した者の余徳ではなからうか。しかも、ブッダが金銅や木彫の仏像としてではなくて、わたしに問い語りかける人格者として、常にわたしとともにある、と知らされてくる。

今日、仏教の現代化が識者たちによって、強く叫ばれている。仏教といつてもそれは漢訳仏典の伝統の下にうけつがれてきたから一般知識人にとつて、漢訳そのものが非常な抵抗となつてい

しい研究と理解とが、仏教徒にとって要求されよう。「花まつり」の行事が年々盛んになるといふことも、各宗派共通の基盤としての釈尊讃仰の一線上にあることは、いうまでもない。しかしながら、たゞそれだけであつてはならないであらう。「花まつり」を通じて人間の成仏を實踐し、実践したところの、人間ゴータマ・ブッダを知ることだけではない。南方仏教徒が、五月のウエーサク祭を祝日として、ブッダの誕生も成道も入滅もすべて含め一年中の最大の行事としてい

ることは興味深い。各宗は、祖師仏教の性格の上に、開祖ゴータマ・ブッダの「花まつり」を加えることによつて、仏教の現代化を思い切つて実行して欲しいものである。「花まつり」行事のプランの底を流れる理念を、改めて、再思することは、現代仏教徒の課題であると信ずる。

(東京大学助教授、文博)

印度仏跡再興の父を讃え

九月十七日からカルカッタで行事既報のとおり、印度大菩提会(D・ヴァリシン、事務総長)では今年九月十七日を期して、盛大に大菩提会創設者で、印度仏跡再興に生涯を捧げた故アナガリカ・ダンマパラー師生誕百年記念をカルカッタを中心に開催する。

全仏オリニック対策協議会 第一回委員会開催

既報の全仏オリニック対策協議会では、第一回委員会を三月二十六日午後一時より東京築地本願寺で開催し、正副委員長の互選、英文日本仏教案内書の作製などについて諮問した。(詳細は次号)

浅草寺宝蔵門完成

四月一日より盛大な開帖一切経を納める浅草寺宝蔵門は大谷米太郎建設委員長(浅草寺檀徒総代)が中心となり、昨年起工し、その後々々建設が進行していったが、今年三月に遂に完成を見た。浅草寺では、これを記念して、四月一日から三十日迄の一カ月間に亘り、宝蔵門落慶奉告開帖大法要を執行することになった。

宮本博士主査の文博第一号 南ベトナム天恩比丘に授与

かつて南ベトナム留学生として早大に学んだ、釈天恩比丘にこのほど早稲田大学より文学博士号が授与されることになり話題をよんでいる。

天恩比丘は主査を宮本正尊博士について論文を執筆していたが、タイトルは「日本とベトナム仏教の比較研究」ということで、非常に優秀な論文といふことで、宮本博士主査による第一号の文学博士号が誕生することになったものである。

解も多種である。中村博士の説によれば、ブッダの入滅を西紀前三八三年と考へて、誕生は西紀前四六三年と算定されている。昭和三十一年から翌年にかけて、セイロンで仏滅二千五百年祭(ブッダ・ジャヤンティ)が盛大に挙行されたが、これは南方仏教の伝説に基づく、つまり、中村博士の説よりも、百六十年も古く溯るわけだ。従つて、南方仏教は、ブッダの誕生を西紀前六二四年とみていることになる。

ともあれ、歴史なきインドの国において、アショーカ王の出現は偉大であった。ブッダの年代決定に学的根拠を与える点で、この王の治績を忘れてはなるまい。

病身をはかんで、紀州の海岸で足を海水にひたしつゝ思ひを遙か天竺によせたことは有名である。そして、明治時代に入って、やつと、インド仏蹟への巡拝が、われわれの先輩たちによつて達成されたのである。釈尊の聖地をたずね、誕生の地ルンビニー、成道の地ブッダ・ガヤ、最初説法の地サルナート、あるいは入滅の地クシナガラなどの景観を目のあたりにすると、仏教徒として、生涯の念願の果された思いに感泣しない者はいないのであろう。仏典にくりかえし記されている。王舎城や舎衛城の遺跡が、昔と今の相違はあつても、なにかしら、自分のふるさとのような感じで、なつか

の成仏・成道の意義を探索しなければならぬからである。ほとけはゴータマ・ブッダのみならず、無数のほとけの出現が約束されるほとけ出現の展開史が、仏教史なのである。いまこそ、釈尊伝の新

全仏に オリンピック 対策協議会を設置

英文日本仏教案内書など作製

全仏では今年度の事業方針の一
つにオリンピック大会を迎えての
対策として、英文日本仏教案内書
の作製、礼拝施設々置等をあげて
いるが、過般開催された局内会議
で、「オリンピック対策協議会」
(仮称)を全仏に設置することが承
認され、常務理事会の承認を得て
実動に移ることになった。

なお本協議会の委員は、国際專
門委員を中心に他の総務、組織、
文化の各専門委員より適宜選出し
て構成し、全仏事務局との関係
は、全局がこの協議会の事業完遂
のため協力し、協議会は諮問に
応えると共に、その実動をも成す
というもので、主管局は国際局が
ある。主な事業は、①礼拝施設に
ついて、②英文日本仏教案内書
の作製、③公衆道徳昂揚、④日米文化
会議開催、⑤通訳陣の動員、⑥そ
の他必要と認める事項。

なお事業及予算については、す
べて全仏常務理事会の承認を得て
実施することになっている。設置
期間は、一応四月から十一月まで
であるが、三月二十六日午後一時
から第一回の協議会を、東京築地
本願寺で開催することになってい
るが、近々高階会長より委嘱状が
事務局選出の各委員におくられる
因みにオリンピック対策協議会
(仮称)委員は次のとおり。

小野塚潤澄、神野真一、長野隆
法、藤原俊、松村寿顕、栗本俊道
北之内真竜、仲田順和、船口暉子

全仏協賛

新作能「鑑真和上」上演

鑑真和上遺徳奉賛会では、全仏
協賛により新作能「鑑真和上」を
上演することになった。

これは昨年八月からほしまつ
た、鑑真和上逝世一千二百年記念
年間行事の一環として開催される
もので、土岐善麿氏の製作、喜多
実氏、彫刻家の本郷新氏らの協力
により上演される。

期日は四月四日(十七)午後二時か
ら、東京品川区上大崎四の二四五
の「喜多能楽堂」(国電目黒駅下
車)で開かれる。番組は、挨拶(鑑
真和上遺徳奉賛会長高階雅仙(鑑
真会長)、亀井勝一郎、土岐善麿
の各氏より成され、幸円次郎、寺
井政教氏らの出演で新作能「鑑真
和上」が上演される。

富士航空電送

富士航空事故合同慰霊祭

過般の富士航空機墜落事故は、
死者十九名を出し、航空史上三番

目の大事故で内外にショックを与
えたが、全仏では二月二十九日殉
難者合同慰霊祭が大分市今津留町
の願西寺で行われた際に、直ちに
丁寧な弔電をおくり犠牲者の冥福
を祈った。

高階会長に手交さる

既報のとおり、ブラジル賞勲協
会から全仏会長高階雅仙禪師へ、
ジョゼ・ボニファシヨ文化功労章
が贈られたが、その伝達式が三月
十一日午後十二時三十分から東京



築地本願寺米賓室で常務理事が出
席して行われた。式は辻本昇氏
(ブラジル仏教徒協議会代表)が
贈呈の経過と趣旨を説明し、終っ
て高階会長が謝辞をのべ、訓誦理
事長の手から文化功労章と賞状が
手交され参席者の盛んな拍手を
あびた。

WFBの本部移動 不法行為ではない

タイ本部が中国仏教協会声明に反論

WFB中華人民共和国センター
では、既報のとおり一月八日付で
WFB本部、事務局の移動(ラン
グーンからバンコック)は不法で
ある、WFBを私有物化している
との声明を発表したが、このほど
バンコックのWFB世界本部(世
界仏教徒連盟)では、三月四日付
きて声明を発表し、全世界の加盟
諸国へ通知して来た。

即ち、中国の云
うWFB世界本部
の移動は不法であ
り、然かも米帝国
国主義の煽動によ
るものであると云
う点に激しく反論
し、①WFB本部
の移動は情勢上絶
対的必要に迫られ
たからである。つ
まり(第五回世界
仏教徒会議で、ラ
ングーンのととの
WFB本部事務局
はバンコックと云
うことに決定して
おり、しかも第六
回世界会議でもこ
れは変更されてい
ない。②会長ウ・チャントン氏と
事務局員の四年の任期は一九六三
年末で満了となること。③一方ピ
ルマでウ・チャントン会長が逮捕
され、また南ベトナムでクデータ
Iが発生したことで、WFBのメ
ンバーにより緊急に共同一致で行
動する必要性が生じて来たこと。
④こうした情勢下にあつて、タイ
仏教会即ちタイWFBセンターは
ラングーンの本部事務局の事務を

執行するよう、あるWFBセンタ
ーより緊急に要請をうけた。⑤タイ
WFBセンターとしては慎重に
これを考慮の結果、WFB組織を
護るため、これを引受けることを
決めた。⑥一九六三年一杯でウ・
チャントン会長及び事務局の任期
は満了となることは前述した通り
であるが、タイに本部を移動する
には、まだビルマ側が任期中であ
り、タイとしては、慎重を期し、
ビルマ側に電報を送り、この点も
照会したところ、前述のとおり、
緊急事態の発生と、WFBの組織
がくづさないためには、タイ側に
本部事務局を設けて事務を推進す
べきであるとの了承電報を受取つ
た。⑦本部・事務局の移動と新役
員の任命については決して不法で
はない。

②すべての点に亘つて、WFBの
規約に基づいて行つて行つて行つて。③我
々は米帝国国主義による煽動によ
つて成された移動と云う声明に強
い義憤を感ずると共に、決して誤
った態度をとってはいないことを茲
に申述べたい。④我々はWFBの
ために、世界の全仏教徒の友好的
な相互活動のために、また全人類
の福祉と世界平和のために今後一
層努力いたす所存である。以上

第九回 全仏講習会開催(予定)

期日 七月三(金)四(土)日
場所 北海道

猶、講師をはじめ詳細につい
ては準備完了次第順次御案内申
し上げます。(全仏文化局)

印度大菩提会

ヴァリシンハ事務総長来日

黒部市、仏舍利奉迎にわく

印度大菩提会の事務総長シュリ・デバブリア・ヴァリシンハ氏は三月二十二日午前八時、横浜港着のフランス船「ヴェトナム号」で来日した。全仏から中山国際局長柳部長など五十数名が出迎えたが、今日の来日の目的は、印度政府から富山県黒部市へ贈られる仏舍利を奉持して来たものであるが、また、印度仏跡再興の父と仰がれるデーヴァミッタ・ダンマパーラ師生誕百年記念祝典に対する日本仏教徒の協力を要請することも来日目的の一つである。

仏舍利を贈られる黒部市（芦崎久治市長）では、仏舍利奉賛会会長芦崎久治氏を構成し、盛大な奉迎式典を開催するが、全仏も協賛を求められたので常務理事会の議を経てこれに協賛することに決定した。なおヴァリシンハ氏の全仏歓迎会は、三月二十四日午後二時より東京築地本願寺で盛大に開かれたが、全仏関西事務局主催による関西側の歓迎会も三月三十日午後五時から京都市東本願寺で開催される事になっている。ヴァリシンハ氏の日程（概略）は次のとおり。

- 三月二十二日 午前八時横浜港着
- 三月二十三日 自由行動
- 三月二十四日 全仏歓迎会
- 三月二十八日 東京滞在
- 三月二十九日 宿舎はアジア会館
- 三月二十九日 大阪着。各山参拝

三十日 京都着。各山参拝
 三十一日 京都各山参拝
 四月一日 奈良、比叡山参拝
 四月二日 永平寺参拝予定
 四月三日 黒部市到着。パレード。
 四月四日 黒部市仏舍利奉迎式典
 四月五日 国際親善花まつり大会。於黒部市。
 四月六日 午前中金沢市で行事あり。
 四月七日 午前中東京着。東

四月八日花まつりを期し 読売ランド仏舍利奉迎大式典

全仏 高階会長導師で

読売新聞、日本テレビ、関東一社の三社が合同して東京都下多摩川の百二十万坪の土地に読売ランドが立派に完成し、三月十九日開場されたが、このランド内に聖地ができそこに釈尊の仏舍利と、御遺髪がまつられる大仏舍利塔が目下建立中で、本年八月に完成の予定である。

この仏舍利塔へこのたびセイロン政府より本会顧問の正力松太郎社主を通じ日本国民へおくりたる仏舍利がいよいよ四月八日午後一時セイロン国文化教育大臣以下七名の代表が捧持来日されることになった。また釈尊の御遺髪はパキスタン政府から同様おくりされることにな

駐日米大使刺傷事件

過日、心ない一暴漢のため重傷を負った、駐日米国外務大臣ライシャワー氏の不幸な事件は、内外に大きなショックを与えたが、全仏では高階会長の代理で、早速中山国際局長が、東京の米国外使館を訪問し、種々御見舞のことばを伝達した。

長原敬峯師帰国す

去る三十六年春から三年有余に亘って南方仏教の研究と、日本人霊骨堂供養の目的でタイ国バンコック市のワット・マハタート寺に滞在し、旁らバンコック市訪問の日本仏教徒の接待等に尽力されてきた、高野山真言宗派遣の長原敬峯師は、このほど修行期間が満了になったので帰国することになり去る三月二十四日夜空路帰国された。なお訪タイ日本仏教代表有志が近々同師の歓迎会を持つともよう。

全仏組織局長に黒田白純師 同局主事も決定

全仏常務理事会は三月十日東京築地本願寺で開催されたが、二の宮組織局長の辞任に伴い、後任は曹洞宗に一任され、同宗推薦により、黒田白純師が新たに組織局長に選出され、三月十一日付けで発令決定された。

師は栃木県大田原市光真寺住職で、東京桐ヶ谷寺住職、曹洞宗々議会議長、自坊開縁で、幼稚園をはじめ洋教学校等幾多の社会事業に邁進されており、また大本山総持寺副監院も歴任され、今後の活躍が大いに期待されている。六十才。

なお同組織局長の相馬広濟氏は一身上の都合でこの程辞任されたが、新主事に上野林光院古宇田亮宣師師弟の亮文師が天台宗より推薦され、三月二日付けで発令になった。

高尾山春季大祭

四月二日に開催

真言宗智山派大本山高尾山薬王院（山本秀順住職）では、来る四月二十一日午前十時半をきして盛大なる、春季大祭を行うことになった。当日は八王子市を中心に同市のメインストリートで稚児行列（約千名参加）、山伏練行、大法要（於薬王院本堂）等が行われる。

上村真肇師

浅草寺勸学所長、大正大学教授全仏国際委員などで大いに活躍されていた師は、三月十八日午後十一時突如狭心症のため、浅草寺病院で不帰の人となられた。

師は天台教学の権威者で、教学研究のかたわら、母校大正大学の教壇に立ち、また数々の著書を世に送っている。浅草寺にとつてのみならず、日本仏教界にとつても大きな損失である。師は一昨年仏大東漸七十年記念会より代表に選ばれ、遙々米国をはじめ欧州各地を廻られ見聞を広め、つい最近全仏国際委員に就任されたばかりであった。享年五十六才。

なお本葬儀は五月四日午前十時から東京浅草の浅草寺で行われる。

あとがき

▼静岡大会も目前に迫って来た。組織局長は黒田新局長を中心に奔走西走。東京から静岡市への往復も毎日にはげしい。

▼全仏大会では空前の五千名の動員と云うことで、静岡県仏、市仏が中心の大会事務局は大奮である。学会の本拠地であるだけに地元も本部も異常な熱をもやしている。

▼国際局では印度大菩提会ヴァリシンハ氏の来日や、読売ランドへセイロンから送られる仏舍利奉迎等の諸準備で目が廻るような忙しさにある。（編集者）